

「道の駅」による地域活性化の効果を高めるために



道の駅
Michi-no-Eki



令和3年度まちなか活性化セミナー
2022年 2月1日

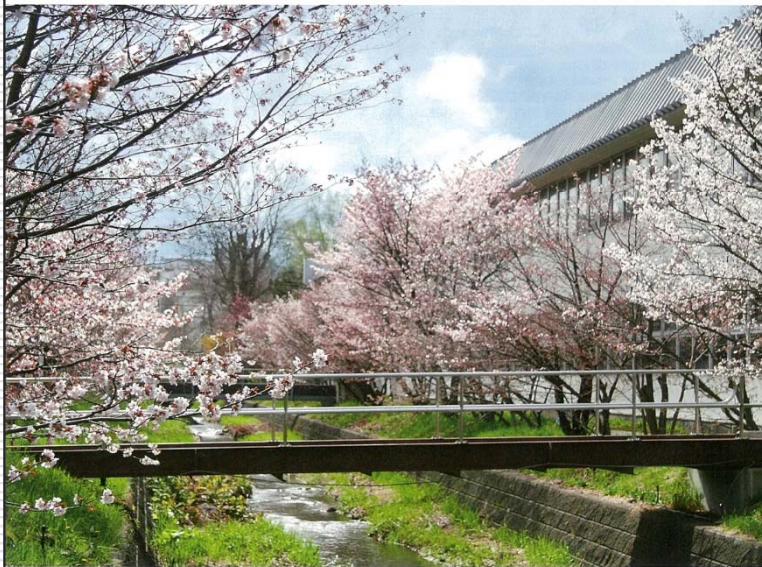
国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 地域景観チーム 松田 泰明

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所

国立研究開発法人 土木研究所

寒地土木研究所

概要 Civil Engineering Research Institute for Cold Region



- ・ 国立研究開発法人 土木研究所としては、つくば(中央研究所)と札幌(寒地)の2拠点
- ・ 寒地土木研究所(札幌)は、もとは北海道開発局付属の土木研究所。



- ・ 寒冷地における
良好なインフラの維持整備等に必要なとなる
土木技術の研究・開発
- ・ 技術指導等による研究成果の普及を通じ、
良質な社会資本の効率的な整備
および北海道開発の推進に質することを目的



寒地土木研究所 地域景観チーム

<http://scenic.ceri.go.jp>

地域景観チームの研究紹介

■ 寒地土研に**2006年**に設置2019年チーム化（現在：研究員8名）

良好な景観形成によるインフラの質の向上や利用価値の高め、
ユーザー満足度向上や地域を支援する研究を行っている

“利用者”や“地域”の視点で研究を進めている

■ **土木景観**に関する研究

■ **社会資本の観光利活用**に関する研究



道の駅



電線電柱・無電柱化



まちづくり・観光



景観調査・計画・設計・評価



道路景観



街路樹



色彩検討



屋外広告物



土木分野における木材活用



地域景観チームの研究 & 技術を現場へ反映

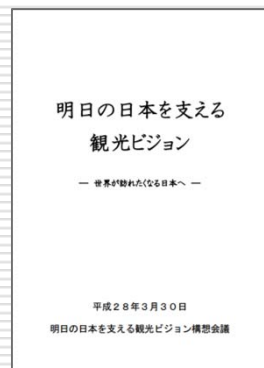
研究課題・研究ニーズの発掘

- ・ 上位計画、関連計画、
- ・ 過去の技術相談案件、現地調査、

北海道総合開発計画



各種閣議決定計画



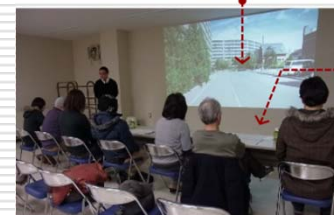
研究テーマの立案、研究の実施

- ・ 事例調査、試験、被験者実験、統計解析、



多数の
歩行空間の評価用写真

歩行空間の選好
及び印象に関する設問 (回答例)



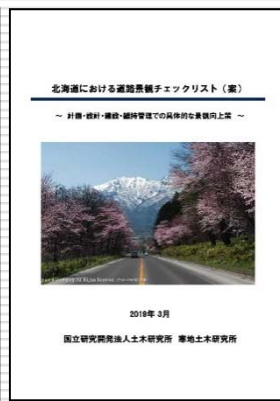
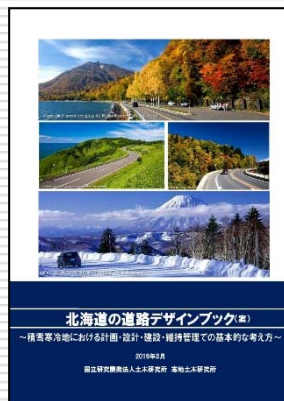
写真No. 1

写真から感じる印象が、左も右どちらの「キーワード」に近い、6段階で評価してください。
A～Gまでの7つすべてにお答えください。
1. 左側的に「左」に近い。 2. 「左」に近い。 3. どちらかという「左」に近い。
4. どちらかという「右」に近い。 5. 「右」に近い。 6. 右側的に「右」に近い。

	人工的な	1	2	3	4	5	6	自然的な
A まとまりある	1	2	3	4	5	6	6	ばらばらな
C せり出された	1	2	3	4	5	6	6	つつまされた
D 緑豊かな	1	2	3	4	5	6	6	緑に乏しい
E 開かれ感のある	1	2	3	4	5	6	6	開放的な
F 洗練された	1	2	3	4	5	6	6	素朴な
G 好きな	1	2	3	4	5	6	6	嫌い

成果の取りまとめ

- ・ マニュアル、ガイドライン、技術資料、



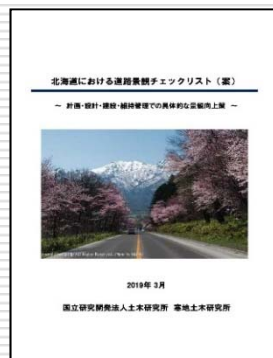
普及

- ・ 講演会、講習会、セミナー、技術相談、

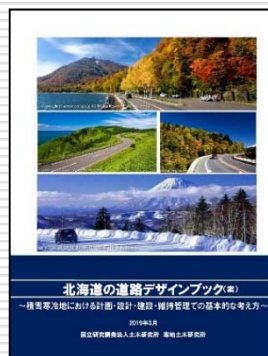


地域景観チームの成果の普及：マニュアル類

北海道における道路景観チェックリスト（案）



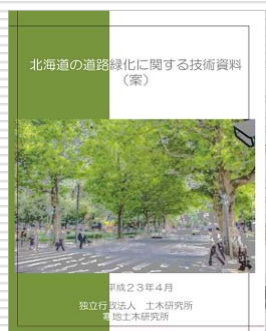
北海道の道路デザインブック（案）



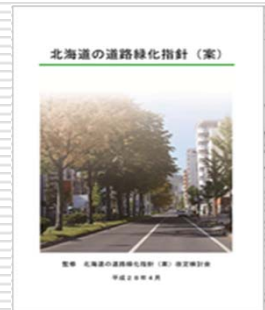
北海道の色彩ポイントブック



北海道の道路緑化に関する技術資料（案）



北海道の道路緑化指針（案）[平成28年度]



北海道中化工法と整備手法の選定ポイント（案）（R1.6発行）



道の駅ハンドブック（英・西語版）（R2.3発行）

地域景観ユニットのウェブページからダウンロードできます。
<http://scenic.ceri.go.jp/manual.htm>



プレゼンの概要

自己紹介・研究紹介

1. はじめに

- ・「道の駅による地域活性化の効果を高めるために“必要なこと”」

2. 「道の駅」とまちづくり

- ・「道の駅」とは
- ・「道の駅」の効果とまちづくり

3. 「道の駅」によるまちづくり効果を高めるヒント

- ・どのように“まちづくり効果”を高めるか？
- ・参考事例

はじめに

「道の駅」による
地域活性化の効果を高めるために必要なこと

多くの利用で賑わう「道の駅」



▲東川町「道の駅」、中心市街地に立地・既存施設活用型

多くの利用者と賑わう「道の駅」



「道の駅」による地域活性化の効果を高めるために必要なこと

大前提

➤ 「道の駅」が元気でない、「道の駅」によるまちの活性化難しい！

→ したがって、まずは「道の駅」を活性化させる！

※ただし、「道の駅」ではなく「道の駅に代わる拠点施設」でも可能！
どのような施設がその可能性があるのか考える

➤ その上で、他の施設や事業でまちづくり効果を高める！

「道の駅」による地域活性化の効果を高めるために必要なこと

- 「道の駅」のことをよく識ること
- 「道の駅」とまちづくりの関係をよく理解すること
- 自分たちのまちの「道の駅」の目的を共有すること（何のための道の駅？）
- 多の施設や組織と連携/協力/役割分担すること
- 効果を高める具体の技を得ること（「道の駅」を使いこなすために）
- 以上を理解した上で、適切な合意形成を進め、優先順位も意識して実践する
- その際に、適時に、他力も活用し、しなやかに、粘り強くゴールへ

1. 「道の駅」とまちづくり

1.1 「道の駅」とは？

- ・単なるロードサイドストッローではない！
- ・「道の駅」モデルの特徴と成功の理由
- ・自治体にとって「道の駅」は地域活性化の強力なツール

1.2 「道の駅」の効果とまちづくり（まちづくりのための「道の駅」の活用）

- ・「道の駅」の効果とまちづくり
- ・「道の駅」の特徴や強み・弱みを知る
- ・あらためて、まちにとって何のための「道の駅」か考える

1.1 「道の駅」とは？

（国土交通省の定義）

「道の駅」は、

- ・安全で快適に道路を利用するための道路交通環境の提供と
- ・地域のにぎわい創出、を目的とした施設

基本コンセプト

- ・「地域とともにつくる、個性豊かなにぎわいの場」

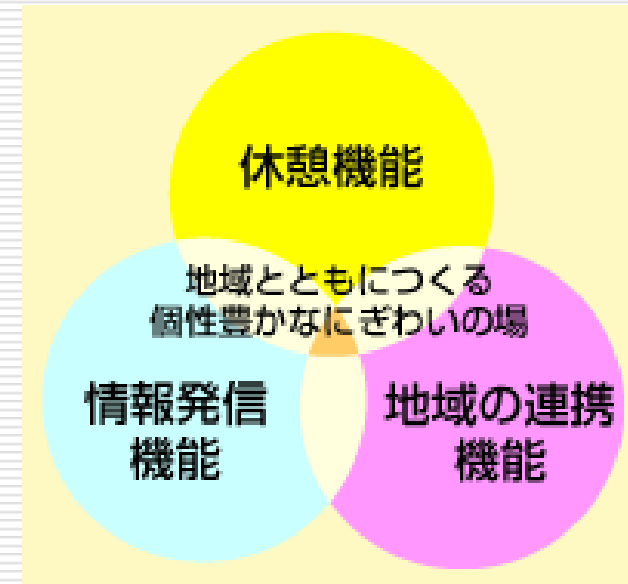
**私の理解：外からの需要を地域コミュニティーを結びつけることで、
利用者も地域も豊かになれる社会システム**

北海道の「道の駅」 （代表的なイメージ？）



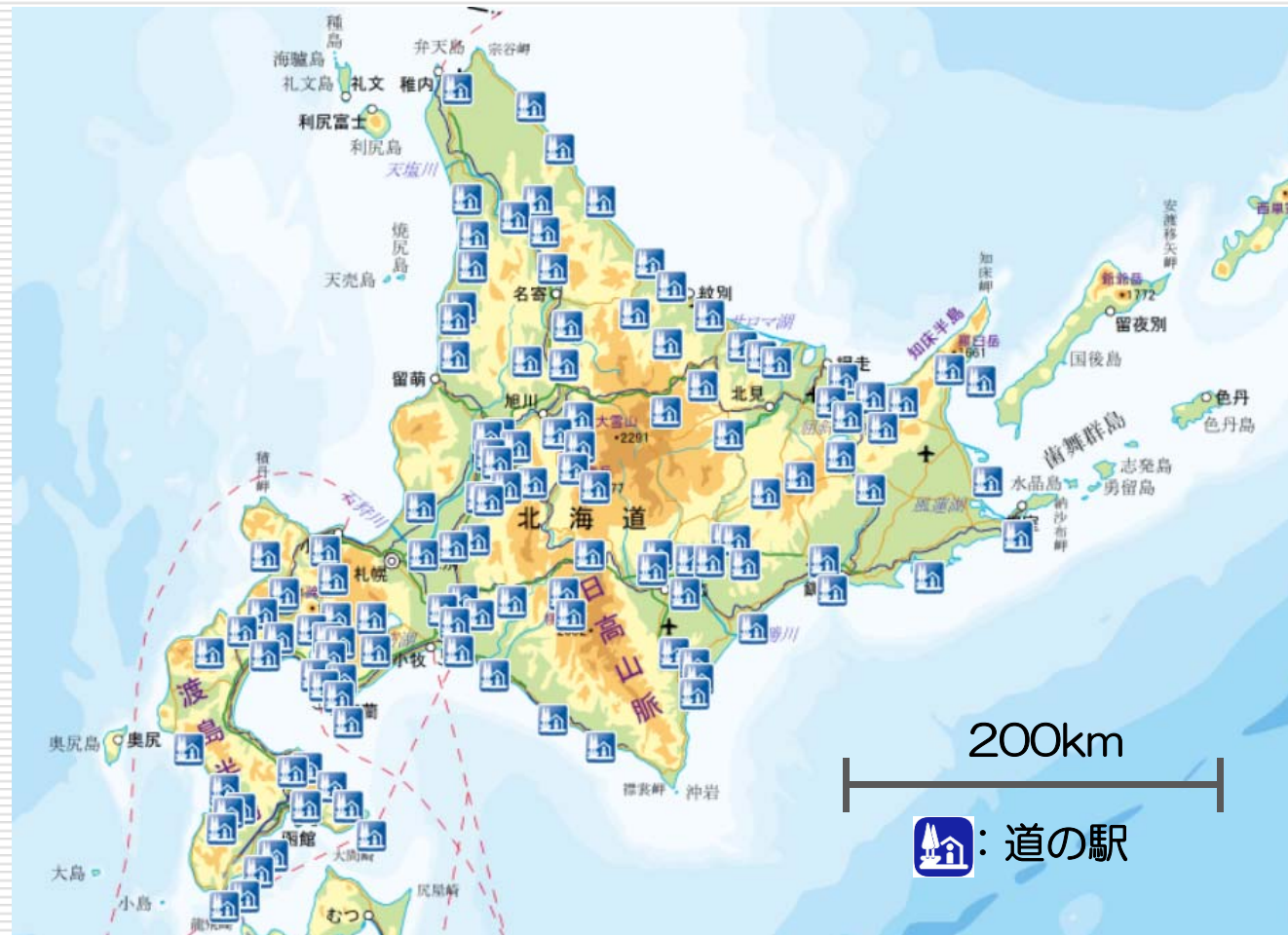
「道の駅」の要件（必要な機能）

- **休憩機能**（24時間）：
無料で利用できる駐車場
清潔なトイレ、公衆電話
- **情報発信機能**：
道路情報、地域の観光情報の提供（案内人）
- **地域連携機能（地域振興機能）**：
地場産業やコミュニティと連携した様々なサービス
観光レクリエーション、歴史／文化
- **防災機能**：（**拠点機能**の一つ）
避難施設、災害復旧の支援施設



参照：国土交通省HP「道の駅概要」
<http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>

北海道の「道の駅」 現在、北海道には128の道の駅がある



- ・道の駅の間の距離は、平均約20km～50km。30分～1時間程度でアクセス
- ・民間が投資しないところに、地域のニーズにより地方自治体が設置するケースが多い

「道の駅」モデルの特徴と成功の理由

➤ 「道の駅」モデルの特徴

- ・「道の駅」は、高速道路のSAやPA、道路沿いにある商業施設とは違うコンセプト
- ・快適で魅力ある沿道の休憩サービスを通じて、地方自治体と地域コミュニティが「道の駅」に協力し、道路利用者との交流により地域振興を図る施設
- ・一つの「道の駅」だけでなく、他の「道の駅」が連携し、ネットワークとしての機能を持つ
- ・国や自治体も積極的に広報するなど、行政も支援

「道の駅」モデルの特徴と成功の理由

➤ 「道の駅」の成功の理由

- ・画一的でない「道の駅」、多様なサービス提供
- ・施設だけでなく、コンテンツ、サービスも充実
- ・地域外からの来訪者と地域住民の両方の利用者が顧客

その他に

- ・各地の「道の駅」が工夫を凝らして、独自性を追求
→ 地域オリジナリティーを活かした商品やサービス
- ・「食の安全・安心」、「安くて新鮮」といった利用者ニーズにマッチ
→ 地場産の農産物直売でにぎわいをみせる
- ・公共施設としての安心感（サービス、商品、価格）
→ 良い品をフェアな料金で
→ 利用や購入が地域の貢献に

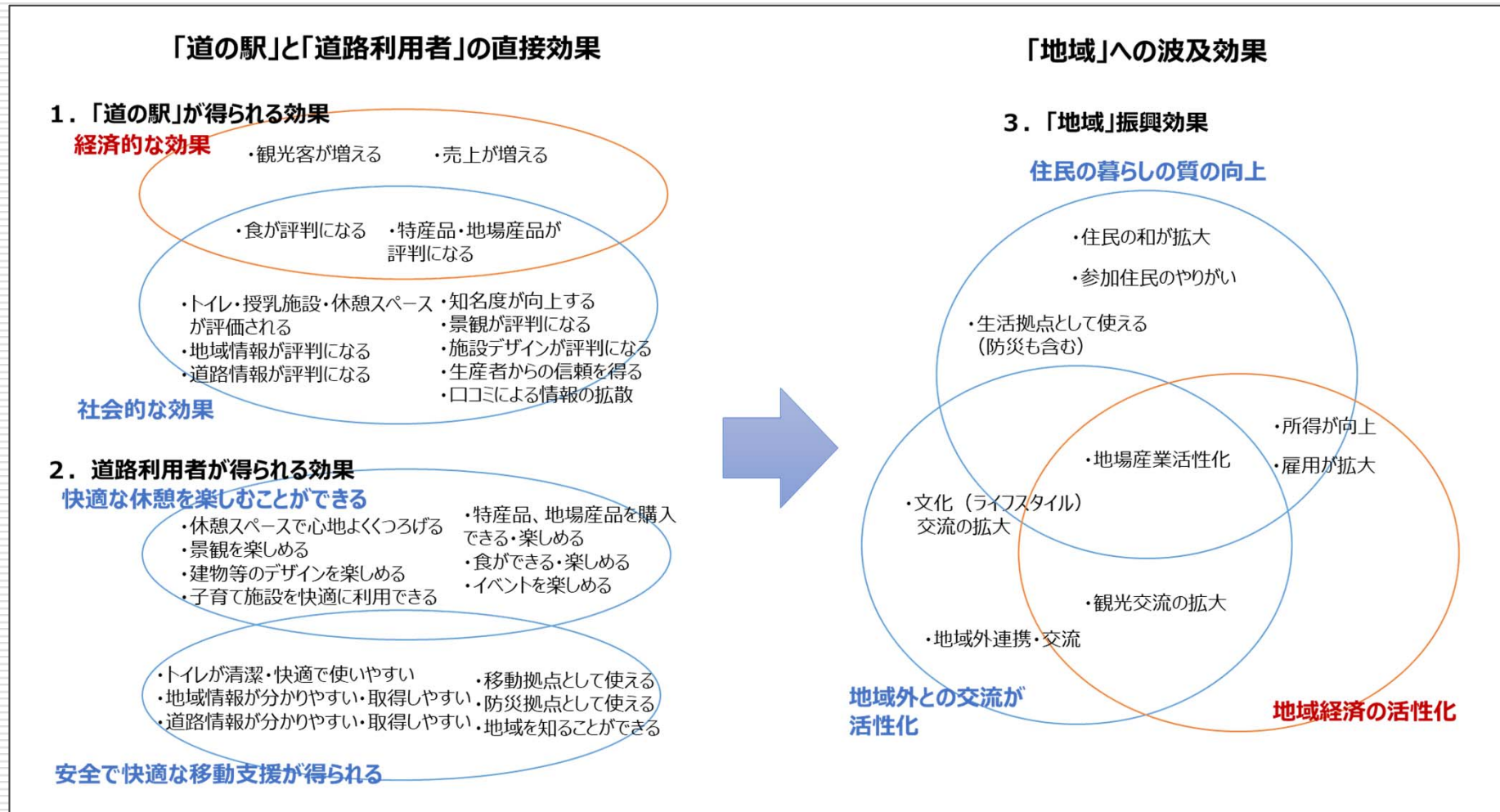
1.2 「道の駅」の効果とまちづくり

（まちづくりのための「道の駅」の活用）

まちづくり効果を高めるには、「道の駅」の効果を知ることが必要
その上で、道の駅の効果とまちづくりの関係性を理解する

「道の駅」の効果

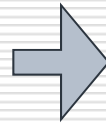
「道の駅」の整備効果全体の項目を示した概念図（寒地土木研究所作成）



「道の駅」の効果とまちづくりの関係

■ 経済的效果

- ・地場産品が売れる
- ・特産品が評判になる
- ・小規模生産者や企業の参画
- ・地域外と連携する



生産者や地域住民の所得向上

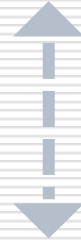
地元企業の売り上げ増加 ⇒ 雇用の増加

地場産品の生産増 ⇒ 地場産品のブランド向上

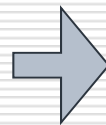
新たな特産物や加工品開発の促進 ⇒ 設備投資や起業

■ 社会的効果

- ・地域住民と来訪者の交流
- ・地域の魅力発信
- ・地域の歴史文化の紹介
- ・生活や防災の拠点をつくる



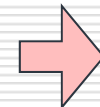
地域外との連携 ⇒ 文化交流の拡大



地域コミュニティの強化 ⇒ 文化活動の活発化

地域への愛着や誇りの醸成 ⇒ 移住者・人口増加

地域ブランドや知名度の向上



・地域経済と観光の振興

・地域住民の幸福感的向上

まちづくりにおける「道の駅」の強み・弱みを知る

➤ 強み

- ・抜群のブランド力（誰でも知っている、立ち寄りたい・・・、全体システム）
- ・外需を取り込みやすく、また地域コミュニティの利用も期待できる
- ・様々な拠点機能の可能性がある
- ・整備時に交付金を受けられやすい



自治体にとって「道の駅」は、
地域活性化の強力なツール

➤ 弱み

- ・需要変動が大きく効率が悪い（休日・平日、夏期・冬期、昼・朝夜）
- ・人気の公共施設としての責務がある（24h対応、大型車の受入れ、災害時対応・・・）
- ・人気や評価にさらされる
- ・収益性の期待できるエリアは、民業圧迫の恐れがある
- ・地方には公益事業と収益事業を高いレベルで行える運営組織がとても少ない

まちにとって、何のための「道の駅」を考える

- 将来に向けて、まちづくりの視点から、あらためて、まちにとって何のための「道の駅」かをよく考えてみる
- 必要により、そのことを再定義し直してみる or 確認してみる



- ・「道の駅」の生かし方がみえてくる？
- ・いま足りないことが見えてくる？
- ・リニューアルで目的も少し変わるかも？

(初期の「道の駅」や既存施設活用型では、まちづくりと上手く合っていない例も・・・)

2. 「道の駅」によるまちづくり効果を高めるヒント

2.1 どのように“まちづくり効果”を高めるか？

- 「道の駅」によって、“高めたいまちづくり効果”を見定める
- 「道の駅」と「他の施設や事業」の両方で取り組む
- まちづくり効果を高める方法
- いつ取り組むか？ 構想段階～計画～設計・建設～運営～リニューアル・・・

2.2 参考事例

2.1 どのように“まちづくり効果”を高めるか？

➤ 「道の駅」によって、高めたい効果を見定める

- ・期待できる効果を高める（高めたいが期待できない効果は別な方法で・・・）
- ・「道の駅」のタイプにより、期待できる効果は違う
- ・「道の駅」の置かれている環境で、期待できる効果は変わる
- ・つねに外と内からの両方の需要（利用と消費）を意識すること

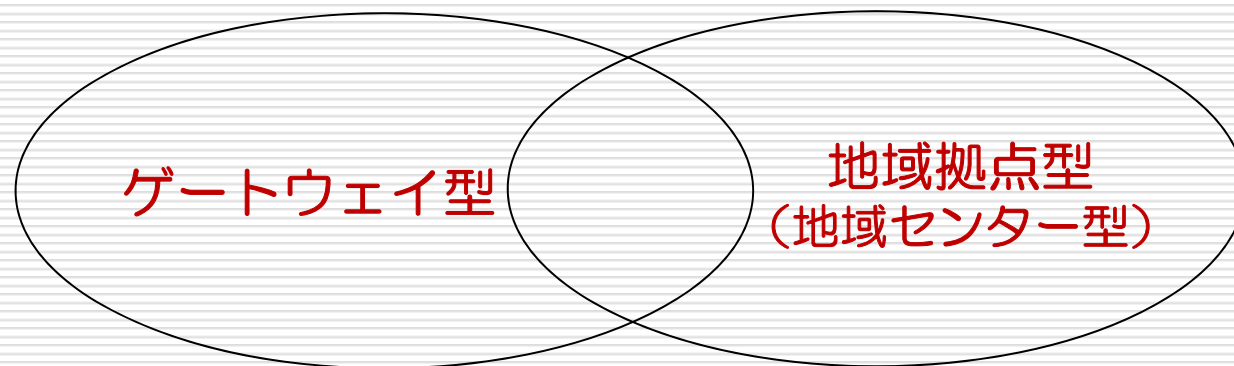


「道の駅」によって、高めたい“まちづくり効果”を見定める

「道の駅」のタイプと使われ方

- 「道の駅」のタイプは、大きく次の2つに分けられる。
- しかし、実際には多くの「道の駅」に両方の要素がある
- 「設置の目的」と「期待する効果」により、タイプが異なる

「道の駅」のタイプ



2.1 どのように“まちづくり効果”を高めるか？

➤ 「道の駅」と「他の施設や事業」の両方で取り組む

- ・「道の駅で取り組むこと」と「他の施設や事業で効果を高める」方法がある。
- ・当然、両方で効果を高めるのが有効
 - ・特に市街地型や市街地近郊型は有効
 - ・郊外型でも取り組めることはある
- ・その際に、ハードとソフトの両面で効果を高める

2.1 どのように“まちづくり効果”を高めるか？

➤ まちづくり効果を高める方法

そもそも「道の駅」が元気でないと、これを活かしたまちも活性化しない！

→ したがって、まずは「道の駅」の活性化とまちづくり効果を生む仕掛けを！

「道の駅」の努力だけでは、まちづくり効果は限られる！

→ 他の施設や事業との連携や役割分担でまちづくり効果を高める！

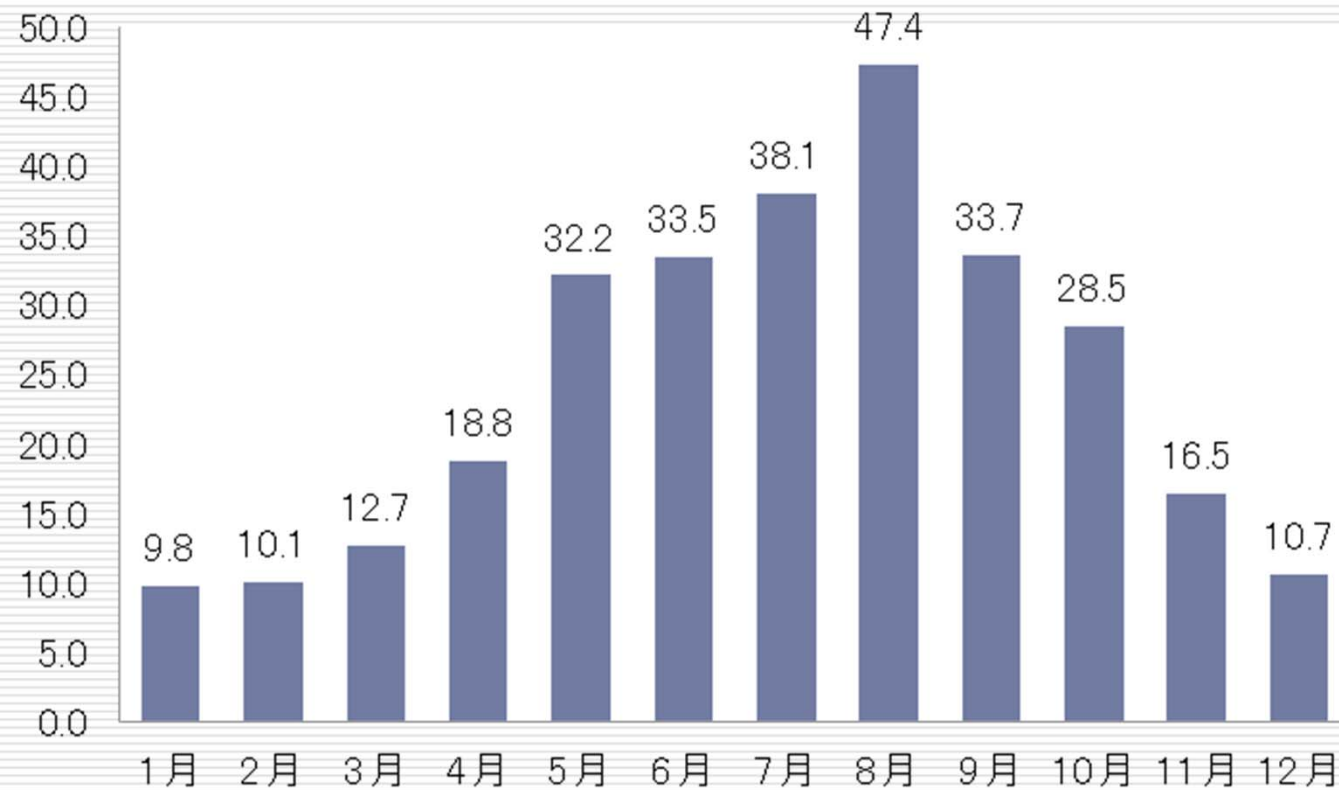
地域でもまちづくり効果を生む使い方をする！

2.1 どのように“まちづくり効果”を高めるか？

➤ 留意点・着眼点

- ・ハードとソフトの両面で効果を高める
- ・新設時と既に整備されている場合でも違う
- ・閑散期の対策が重要
- ・入り込み数よりも滞在時間とリピート率の向上を
- ・付加価値の高い特産品開発と販売
- ・農産物の直売は両刃の剣（売り上げだけでなくまちづくり効果を見極める）

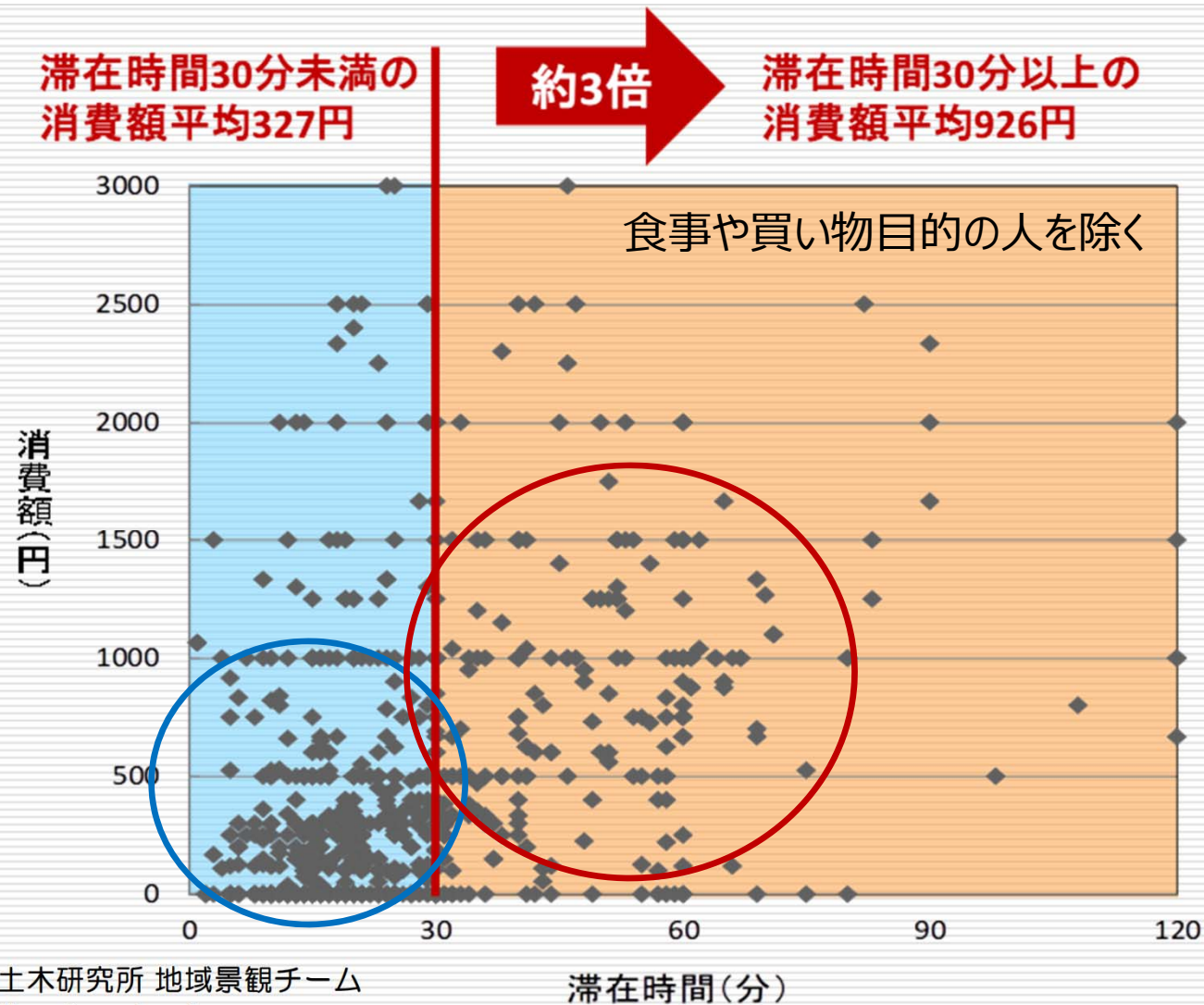
「道に駅」の 平均入り込み客数（月別：北海道 1000人）



・北海道の「道の駅」は冬の落ち込みが大きい → この底上げが重要

「道の駅」の滞在時間と消費額の関係

(実際には、もっと大きな開きが、なお、最初から食事や買い物目的の人は除外)



まちづくり効果を高める方法

道：主に「道の駅」で
他：その他の施設や事業

1. 効果を高められる、場所につくる（道）

（既存駅：移転や追加設置の事例もあり。効果を高める場所にする方法も→2.3.）

2. 拠点性を高める →効果を高める機能・サービスの提供や施設の併設（道）

3. 回遊性を高める →効果を高める施設と連携・協力や役割分担をする（他）

4. 効果を高める“魅力的なつくり”にする（道）

5. 効果を高める運営、組織、契約、連携をする（道）

- ・効果を高められる組織や人が運営主体となる
- ・効果を高める組織や団体、企業、個人と連携・協力する

6. 効果を高まるように使う（地域コミュニティ＆来訪者）（他）

7. まちづくりに関する法令や施策、事業を活用・連携して相乗効果を生む（他）

1. まちづくりの効果を高められる場所につくる

- ・市街地や市街地近郊が効果大 ←○付加機能や連携できる施設が多い
○閑散期も一定の需要やニーズがある
○拠点性を高めやすい（市街地活性化）
×利用できる空間や地価が課題
- ・郊外型、ゲートウェイ型も可能？ ←○空間的な余裕、コストで有利
○新たな拠点を創出できる
×閑散期の需要が少ない
×付加機能や連携施設が限られる

※留意点：新規かつ構想段階からが効果的、ただしリニューアルでもある可能
周辺の用地の事前確保、都市計画区域の設定や用途地域の工夫も

2. 拠点性を高める → 効果を高める機能・サービスの提供や施設の併設

➤ 拠点機能の強化

- ・住民の日常利用の多い施設や機能の導入
 - 生活施設：コンビニやミニスーパー、ATM、カフェ、食堂・・
 - 活動交流施設：セミナールーム、会議室など、市民活動施設
- ・外からの来訪者の利用する施設や機能の導入
 - 情報提供：移住窓口、観光協会
 - 観光/娯楽施設：ビジターセンター、子供の遊び場、宿泊施設
- ・住民＆外からの来訪者の両方が利用する施設や機能の導入
 - 交通施設：バスターミナル/ストップ、自動運転車
 - 文化教育施設：博物館、美術館、図書館などの公共施設
 - オフィス：観光協会、商工会、役場分室
- ・現地とバーチャル両方で拠点性を強化する
 - webサイトも重要、eコマース・・

3. 回遊性を高める → 効果を高める施設と連携・協力や役割分担する

➤ 市街地や周辺施設への誘導や機能分担

- ・市街地や周辺施設への立ち寄りを促す（他の施設などと連携/役割分担）
→ 情報提供、割引クーポン、連携/試験販売
- ・道の駅周辺エリアに他の商業施設や公共施設を戦略的に誘致/配置する：
→ 周辺地域を保全/規制/土地取得。望まない開発を防ぐためにも・・・
- ・あえて、民間施設の機能やサービスを入れないで、分担し回遊を促す
→ 「道の駅」の得意なことや、他で出来ないことを優先、地元優遇

事例：市街・・・東川、上士幌、占冠、フラノマルシェ、・・・

郊外・・・三笠、ニセコ、恵庭、・・・

拠点になる場所につくる（小さな町の中）



拠点になる場所にしていく（周辺への施設誘致：集積化）



拠点になる機能・サービスや施設併設（交通拠点）



拠点になるよう機能・サービスや施設（情報・案内）



住民も来訪者も利用する機能・サービスや施設（公園）



▲花や緑は休憩の魅力を大きく高める

住民も来訪者も利用するサービス（地元になかったレストラン）



拠点になる機能・施設と運営（市民の展示会など）



拠点なる機能と運営（防災機能と24時間受け入れ）



▲ 駐車場への避難状況（北海道開発局提供）

住民も来訪者も利用する機能（カフェ、セミナールーム、日用品販売）



▲小さな集落にある「道の駅西土佐」

住民も来訪者も利用する機能（カフェ、セミナールーム、日用品販売）



住民の日常利用する機能（セミナールーム、資料室）



小学校を活用した「道の駅」



◀正面は元体育館



▲学校のグラウンド を駐車場に利用

小学校を活用した「道の駅」



▲既存の施設（閉校した小学校の建物）を活用した道の駅

小学校を活用した「道の駅」



▲既存の施設（閉校した小学校の建物）を活用した道の駅

小学校を活用した「道の駅」



▲既存の施設（閉校した小学校の建物）を活用した道の駅

4. まちづくり効果を高めるような“魅力的なつくり”にする

➤ 施設や空間の設えは特に重要

- ・居心地の良い、ワクワクする、使いやすい、地域らしい、安心
→ 施設の設計や維持管理は重要、魅力を高める追加投資を



▲同じ建物と敷地面積で駐車場のレイアウトと外構デザインを変えた事例（寒地土研作成）

人が集うようなつくり（駐車場を休憩と交流広場に）



▲ 駐車場にテーブルとパラソル、ベンチ、プランターを設置し、入り込み数と売上げが増えた例
（寒地土木研究所による技術指導）

5. まちづくりに効果を高める運営&組織、契約、連携

➤ 運営

- ・まちづくり効果を高める運営を行う
 - 地元でお金が回る運営を（積極的かつ継続的な地場産品の開発など）
 - 地域住民にも裨益する運営を（住民の暮らしの向上や参画など）

➤ 運営組織と人材

- ・運営組織の活動目的がまちづくりに繋がる組織が良い（意識や目的）
- ・「道の駅」の公益事業と収益事業の両方のノウハウがある組織/人材の確保
- ・「道の駅」以外の施設やまちづくり事業を同時に行える組織が良い

➤ 契約やルール、仕組み

- ・まちづくりに効果を高めるような指定管理契約や評価/改善の仕組みの導入

まちづくりに貢献する運営主体（地元コミュニティによる運営）



まちづくりが目的の運営主体（地域商社の設立して運営）



6. 効果を高めるように使う（地域コミュニティ＆来訪者）

➤ 特に地域の利用が重要

- ・日常利用：まちのリビング、情報交換、特に閑散時の会議やサークルなど
- ・イベント：祭り、学校行事、発表会、社会体験、・・・
- ・購買：勾配お歳暮・お中元、ふるさと納税・・・

※留意点：一極集中や民業圧迫とならないように・・・

まちづくりに繋がる地域の使い方（地元コミュニティの活動）



まちづくりに繋がる地域の使い方（地元コミュニティの活動）



写真：安平町提供

入込数が減少する冬季に地元住民向けのイベントを実施
→住民の和の拡大、文化交流の拡大に貢献

教育活動としての使い方（地元コミュニティの活動）



高校生カフェ

La mikka
～素材のわかる、パティシエの卵～

道の駅 真狩フラワーセンターで！

5/2(SAT) 11:00 OPEN

私たちは、平成25年度に真狩高校に新しく誕生した野菜製菓コースで学んでいます！農業と製菓の両方を勉強している私たちだからこそ、**素材のわかるパティシエの卵**として、**素材を生かしたお菓子作り**を目指します！まだまだ未熟ではありますが、一生懸命作りますので、ぜひ来てください！！

副店長 店長

●MENU●

- ・イチゴのショートケーキ
- ・シュークリーム
- ・季節のモンブラン
- ・焼菓子
- ・パン
- ・ロールケーキ（実演）などを販売します。

OPEN 11:00 ~CLOSE 16:00

●オープン予定日●

5/2・3・9・30
6/20・28
7/4
8/8・9・29
9/6・26
10/24
11/7・21
12/12・19
1/16・30
2/11・27
3/12・19

※今年度は24回を予定していますが、都合により変更になる場合がありますので、ご確認の上、ご来店下さい。

La mikka
～素材のわかる、パティシエの卵～

【住 所】道の駅 真狩フラワーセンター内
蛇田郡真狩村字光8番地3
【問合せ先】北海道真狩高等学校
TEL：0136-45-2357
URL：http://www10.ocn.ne.jp/~makkari/

道の駅 真狩フラワーセンター
La mikka ホウレン 2ワンズ
バス停
真狩高校
真狩電

▲地元の高校(食品科)が週末に出店

7. まちづくりに関係する法令や施策を活用する

- まちづくりに関係する法令や施策を活用すると効果が高まる
(効果を減じない)

法令

- ・都市計画、用途地域、建築協定
- ・景観計画、景観重要公共施設

施策/事業

- ・都市整備再生事業
- ・観光刷新事業
- ・無電柱化推進事業
- ・道路・街路事業・・・・

これまでの「道の駅」の施設とイメージにとらわれないこと！



▲国土交通省HP 「道の駅の施設イメージ」より

ご清聴ありがとうございました

